

論 文

# 水分管理を守れない透析患者にエゴグラム を用いた看護介入

池端よう子 原 昌江 村田 明子  
(社会保険鳴和総合病院)

## Nursing Intervention for Hemodialysis Patients with Weight Control Problemsuse of Egogram during Dialysis Sessions

Youko Ikehata ,Masae Hara and Akiko Murata  
Naruwa Social Insurance Hospital

### 要 旨

水分管理不良の為、透析回数を週3回にもどすことも出来ず、表情も乏しく、自分の思いも話せずにいる患者に対し、少しでも前向きに透析を受けていけるよう援助したいと考えた。そこでより良い人間関係を構築することを目的に患者及び関わる看護婦3人に東大式エゴグラム（以下エゴグラムと略す）をとり、3ヶ月間にわたり週1回透析後に個室で面接を行った。

その結果、患者のエゴグラムの高いA C、低いF Cは自由なCが抑圧されていると分析されることより、患者が自由な思いを表出できるよう働きかけた。患者との関わりのなかで表出された思いに肯定的ストロークをかけることにより、患者は自己の存在に気づき、自分の判断で自信を持って行動を決定してみることが出来るようになった。

今回エゴグラムを活用し積極的に関わりをもつことで成果をあげることが出来た事例を報告するとともに、患者との人間関係、信頼関係を構築する一手法として使用出来る。

### Key Words

エゴグラム(Egogram) プロセスレコード(Process record) 透析患者(Hemodialysis patients) 水分管理不良(Overweight gain)

### はじめに

慢性疾患患者の中でも透析患者の自己管理は重要であり、予後にも影響が大きい。しかし自己管理不良な患者は、指導を行うことにより更に落ち込んでしまったり拒否的態度をとったりする傾向が見られる。

私達は、水分管理が守れず、週4回透析を行っている患者に対し、透析回数を週3回にもどすよう指導を行っていた。しかし、週3回にもどることも出来ず、表情も乏しく自分の思いも話せずにいる患者が少しでも前向きに透析を受けていけるよう援助したいと考えた。そのための試みとして、患者とそれに関わる看護婦の接し方に着目し、働きかけることにした。

患者が自己に目を向け、自分自身に気づくことで、水分管理を含む日常生活に正面から立ち向かうことができるよう、また、看護婦も自己を知ることによって、個々の性格特性を活かし、患者とのより良い人間関係を構築することを目的として、患者及び関わる看護婦にエゴグラムによる客観的性格分析を行って見た。

透析中はプライバシーを保てる環境設定とはいえ、その中で患者に十分に思いを表出させることは難しいと考え、その患者に対して週1回透析後面接を行うことにした。

面接時エゴグラムパターンを参考に関わりをもち、プロセスレコードを再構成し、より患者に近づこうとしたことで、患者の反応が少しずつ変わってきた



『EG活用マニュアル事例集』のアドバイスをH氏に伝えた。H氏より納得できるところがあるという反応が得られた。

看護婦A、B、Cも各々のタイプの特徴を知りアドバイスをもとにより良い人間関係が保たれるように心掛け面接に臨んだ。また面接後は関わりの一部をプロセスレコードにとり3人の看護婦で評価検討し、次回面接時の看護婦の態度の統一を図った。

最初は個室で一对一で話し合うということに不安を感じ終始うつむいて返事するだけだった。7月20日の看護婦Aとの関わりでは水分管理のことに触れると行き詰まりを感じ会話の終結に至った。

H氏のエゴグラムによる高いAC、低いFCは、自由なCが抑圧されていることを意味するという分析結果から、今は体重の事は触れず、H氏の自由な思いを表出させるように働きかけることとした。

B、C看護婦との関わりでは次第に感情の表出がみられるようになったが、8月8日のA看護婦との関わりでは、A看護婦は一度も水分管理のことは触れなかったにも拘らず体重増加の話になり会話が続かなくなってしまった。また会話の中より幼い頃より劣等感を持ち続けていることが推測され、自分の存在感を見失いがちなのではないかと考え否定的なストロークを避けて肯定的ストロークをかけることで自己の存在の意味を少しでも感じて貰えるよう働きかけることにした。

B、C看護婦との関わりの中では、肯定的ストロークをかけることで自分に気づき「こんな自分でも役に立つ事があるんやね」という言葉も聞かれた。しかし8月8日A看護婦がH氏に励ましの言葉を掛けたところ「出来る事と出来ん事がある」と言い話が終わってしまった。

9月28日信頼関係も深まってきたと判断し自分の決断で行動を決定してみるよう勧めたC看護婦との関わりでは、水分管理の話を出すと自ら目標を口に出したり「自分でも随分性格が明るくなった」という反応がかえってきた。また当初みられた体重のごまかしや、透析中の隠し飲みをしなくなりジュース等飲みたい時は、体重測定時飲める余裕があれば自分から申し出が出来るようになった。

3カ月間の面接の後、もう一度H氏のエゴグラムをとった結果低いAは変わらないが、天真爛漫のFC、他人に対する思いやりや愛情を示すNPが伸び『お人好しタイプ』というパターンとなった。

## 考 察

H氏のエゴグラムの結果、データに基づいて客観的に物事を分析し、冷静な決断を下すという成人Aよりも、人生早期に周囲の人達の愛情を失わないために子供なりに身についた処世術ACの方にエネルギーを費やしている。このことは今までのH氏の行動パターンや会話から出てきた事柄から一致する事を裏付ける。

そこで、H氏の存在感や価値を気づかせる為に肯定的ストロークをかけていった事は、その後のH氏の行動やエゴグラムの変化から考察するに、プラスの方向に働いたことは確かである。

各々の看護婦とH氏との関わりでは看護婦Aは、H氏の表情や言葉にとらわれすぎ、自分の考えや、気持ちをうまく伝えきれず会話が終結してしまったと思われる。

看護婦Bは、厚意を押しつけがちなにならないように心掛けながら、H氏の話に傾聴する態度をとったことで、H氏の思いを表出させることが出来たものと思われる。

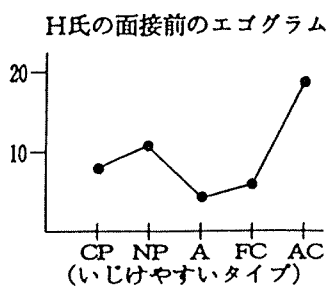
看護婦Cは、感情をそのまま表出する傾向があるため、衝動をコントロールするよう関わった。時々オーバーに褒めたりすることがあったが、肯定的ストロークをかける場面に効果があったと思われる。看護婦B・Cはアドバイスに従い、自己コントロールが出来たと思われる。

患者および看護婦の性格特性を知る事で、今回のエゴグラムの活用は有効だったと思われ、患者とのより良い人間関係と信頼関係の構築を果たすことが出来たものと考えられる。

透析という規制された環境の中では、患者の充分な思いが表出されにくい。白井は『より良い看護とは患者が誰にも遠慮なく恥ずかしいと思わず、子供Cでいられることを許してあげることである』と述べている。透析中はプライバシーが守られにくく、規制されたなかでは、患者に対し、看護婦が優位な立場になり易く、一方的な指導や関わりに終わってしまうことが多い。患者のプライバシーを尊重し透析後個室で一对一の関わりを設定、水分管理の話を選びH氏の話に傾聴する態度に心掛けたことで、H氏も次第に感情を表出させて行く事にもつながったと思われる。

## ま と め

H氏のエゴグラムパターンが「いじけやすいタイプから「お人好しタイプ」に変わった。エゴグラムパターンのアドバイスを参考に関わりをもった結果、

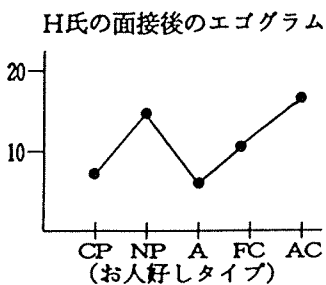


エゴグラムパターンの結果

責任感(CP)と思いやり(NP)が強く、強調性(AC)もあるが現実的な能力(A)が低く、自己主張(FC)も弱いので、心の葛藤が起き、内向してしまふ。

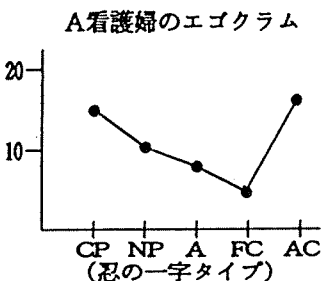
エゴグラムパターンからみたアドバイス

- ・痒いところに手が届いて世話してくれる人を持っている
- ・周囲の人がいろいろ気を遣ってやればイライラは治まる
- ・素直に自分の気持ちを表現してみることも大切である
- ・自分の決断で行動決定してみると良い



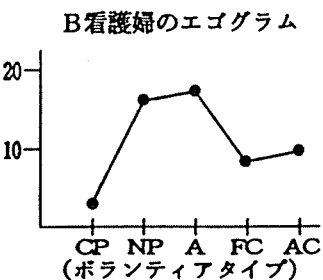
無批判で(CPが低い)強調性(AC)が高いことからどんなことでも骨惜しみせず黙々と働く

- ・与えられたことを客観的に判断し、自分で出来ること、出来ないことの区別をつけること
- ・今ここで何が一番大切なのかを考え行動するよう努力する



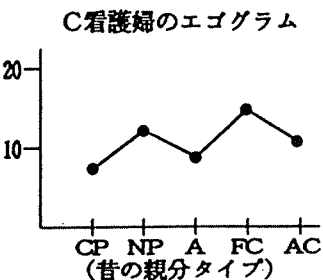
責任感(CP)と他人によく思われたい気持ち(AC)に引っ張られ、しかも自分を主張できない(FCが低いので)感情が内にこもっている

- ・気持ちが内にこもりがちなのでできるだけ陽気にふるまうよう努力する
- ・楽しく生きるには人間の機能(五感)にみがきをかけることを日頃心掛けると効果がある



思いやり(NP)が高いが、自ら楽しんだり(FC)相手の気持ちを考えたり(AC)することがないので、他人を世話することで評価を得ようとする自己満足タイプ  
心の奥底には淋しく甘えたい気持ちが潜んでいるが、それを認めることが出来ず相手に奉仕することで代理満足している

- ・何故それほどまでに人に尽くすのかを、ときに自己分析すると良い
- ・心の根底には自分の満たされない気持ちがあることに気づき、自己も同時に満たされるような工夫をしてみる



思いやり(NP)はあるが、わがまま(FC)なので、規則や秩序(CP)、他人の思惑(AC)などはおかまいなしに行動しがち(A)が高ければ人から慕われ、低すぎると衝動に振り回されてしまう

- ・今ここで何が一番大切なことを客観的に判断することができるようになる訓練が必要である

図2 エゴグラムパターンおよび結果とアドバイス

表1 H氏との関わりとカンファレンス内容及び自己評価

看護婦 A と H 氏の関わり	看護婦 B と H 氏の関わり	看護婦 C と H 氏の関わり
<p>7月20日 水分管理がうまくいくようにするには、どうしたらよいかをアドバイスをすると会話にいきづまった。うつむいて会話</p>	<p>7月27日 体重の事は、ださずに傾聴する態度で関わった。「自分は内にこもるタイプで心配な事をたくさんもっている」と心配ごとを色々話された。</p>	<p>8月3日 看護婦 B と同様傾聴する態度で関わった。「家では一番の落ちこぼれ」「看護婦さんは一生懸命してくれるのに、私はそれに応じれない」等顔を挙げて話してくれた</p>
<p>(カンファレンスの内容) 体重の事を話しに出すと会話が続かないので、暫く体重の話は、しないで本人の思いを表出させるよう関わっていきこう。</p>	<p>(カンファレンスの内容) 病気に対する思い、両親のこと、兄夫婦のこと、今後のこと等の思いをしる事が出来たため、今後も傾聴する態度で関わっていきこう。</p>	<p>(カンファレンスの内容) 劣等感を持ち続けており、自分の存在を見失いがちなのではないかと考え、否定的なストロークは避け、肯定的なストロークをかける事で自己の存在の意味を少しでも感じさせていくよう働きかけていきこう。</p>
<p>8月8日 水分管理にはふれずに会話しようとするが、H氏の方からやはり体重の話しにもっていき会話が続かなくなった。</p>	<p>8月17日 自己管理ノートに書いてあった言葉にたいし「それは、とても良いことやね」と誉めると表情がよくなり、自分の生活を反省した。</p>	<p>9月17日 自己管理ノートを見ながら、上手な絵を誉める。又、子供好きで他人に優しいよい性格をもっている事を言うと、以前老人を助けた事を話され「こんな自分でも役に立つ事があるんやね」とよい表情になった。</p>
<p>(カンファレンスの内容) 会話が続かなくなったため、H氏の良い所にもっと目をむけていきこう。</p>	<p>(カンファレンスの内容) 誉めることで、H氏の気持ちがほぐれてきた様子、今後も肯定的なストロークをかけていきこう。</p>	<p>(カンファレンスの内容) H氏の人格を認めた事で、そんな自分に気づきだした。今後もH氏に気づかせる様な関わりをもっていこう。</p>
<p>8月30日 自分から話してこないで、看護婦から話をきりだす。H氏を励ます言葉を出すと「出来ることと出来ないことがある」と言い話しが終わった。</p>		<p>9月28日 信頼関係もかなりとれてきたと判断し体重の事をきりだすが、明るい表情で自分なりの目標を話してくれた。「自分でも随分明るくなった」と話された。</p>
<p>(カンファレンス内容) H氏が、何が出来るか、可能な事をひきださせる様な関わりにもっていこう。</p>		<p>(カンファレンス内容) 信頼関係もとれてきたと考え、自分の判断で行動を決定してみるよう進めていきこう。</p>
<p><u>看護婦 A. H氏との関わりについての自己評価</u> H氏の表情や言葉にとらわれすぎ自分の考えや、思いを抑え気味に接してしまっただ。もう少し自分の気持ちを相手に伝えることで感情を表出できるようにすればよかった。</p>	<p><u>看護婦 B. H氏との関わりについての自己評価</u> 厚意を押しつけがちにならないように心掛けた。H氏の思いを傾聴する事により、思いを表出してくれたと思われる。又、お互いが楽しめる会話とした。</p>	<p><u>看護婦 C. H氏との関わりについての自己評価</u> 感情をそのまま表出する傾向があるため、衝動をコントロールするよう関わった。時々オーバーに誉めたりすることがあったが、肯定的なストロークをかける場面に使用したため効果があったと思われる</p>

H氏の自由な思いを表出させ、肯定的なストロークをかけることにより自分の判断で行動を決定してやる事が出来た。

患者を知るうえでエゴグラムの活用は有効であった。また関わる看護婦側も自分の性格特性を知る事で、それを生かし患者とより良い人間関係作りに役立てる手段として使用出来る。

表2 9月28日 看護婦Cとの関わりの場面

H氏の言動及び態度	看護婦の思い	看護婦の言動及び態度
①自己管理ノートを拡げ描いてある絵や内容について、楽しく話してくれる。表情はとても良い。	②信頼関係もとれてきた様子、そろそろ体重の事に触れてみようか。	③最近すごく頑張っているね。毎回ドライウエイトに近づいているね。
④うれしそうな表情で、ありがとう、でもまだまだなんや。	⑤自分で評価できるようになりつつあるな、とってもよい傾向だ。	⑥まだまだって、そんなことないよ。えらく頑張っているのが数字にでているもの。
⑦元気良く、うん、でも頑張らんなん。	⑧プレッシャーになっているんじゃないか。	⑨最初のゴールは、近い方が楽なんじゃない。目標は。
⑩真剣な顔で、私、こう増えてくる日と頑張れる日の差が、はげしくなって、これを平均にしくっちゃ思っているんや、身振り手振りで話す。	⑪すごい、自分から目標をいえるなんて、随分変わったな、すごくうれしい。自分では、気づいているのか。	⑫Hさん、かわったね。自分から何でも言ってくれるようになったね。私もとってもうれしいよ。少しオーバーに喜ぶ。
⑬自分でも、随分性格が明るくなったと思っとるんや。	⑭面接をする事で、変化が現れたのだろうか。	⑮こうやって話するのって、負担じゃない。
⑯なーん、こうやって真剣に話聞いているから、私も何でも話せるしとっても楽しい。	⑰良い反応が得られた。	この後も会話はつづく。

文 献

- 1) TEG (東大式エゴグラム) 研究会：TEG活用マニュアル事例集，金子書房，24,27,31,32,38,1994.
- 2) 東京大学医学部心療内科：新版エゴグラムパターンTEG第2版による性格分析，金子書房，27，1995.
- 3) 白井幸子：看護にいかず交流分析，医学書院，214，1991.